

令和7年9月25日

山元町議会議長 菊 地 康 彦 殿

派遣議員 竹内 和彦 高橋真理子 丸子 直樹
大和 晴美 渡邊千恵美 品堀 栄洋
岩佐 秀一 岩佐 孝子 伊藤 貞悦

議員派遣結果報告書

宮城県町村議会議長会主催の「令和7年度町村議会議員講座」に出席しましたので、その結果を下記のとおり報告します。

記

- 1 研修目的 研修を通して議員の資質向上を図る。
- 2 研修月日 令和7年7月3日・4日
- 3 研修場所 宮城県自治会館
- 4 研修内容
 - (1) 7月3日
講演「これからの地方議会の役割と課題」
講師 日本大学法学部公共政策学科教授 林 紀行 氏
 - (2) 7月4日
講演「議会が行うべき予算・決算審議について」
講師 一般社団法人 地方公共団体政策支援機構
上席研究員 渡辺 大樹 氏
- 5 研修概要
 - (1) 7月3日
近年全国的な課題となっている「議員のなり手不足」に対する要因を様々な観点から客観的判断に基づくデータを示され、課題解決のためのアプローチを行った自治体の具体的事例、議員報酬の判断モデル等について講演があった。
 - (2) 7月4日
自治体が毎年提出する予算・決算を具体的にどのように議員は審査・判断すればよいのか、法における責任の確認等の初歩的な部分から、判断ポイント、執行部に問うべき事案等について講演があった。

6 まとめ

(1) 7月3日

東京圏の一極集中、少子化、未婚化等の社会問題が、町村議会においてなり手不足という形で顕在化したということを改めて認識した。現代で求められる町村議会議員はいわゆる「名誉職」とは違い、執行部との双方向のコミュニケーションが求められると考える。

こうした責任の重さ、時間的制約、身分など複合的要因も、なり手不足に拍車をかけているのではないか。

今後、本町のなり手不足の解消策として議員定数や報酬の話題に移ることも想定されるが、増減どちらの結果であっても町民への丁寧な説明、理解は必須であることから、日々襟を正した行動を心がける必要があると改めて感じた。

(2) 7月4日

議会による予算・決算審査は、町の将来価値を高めるための本質的な手段である。総合計画との整合性、政策の目的や成果、費用対効果を軸に検証し、限られた財源を戦略的に活用する視点が求められる。少子高齢化と人口減少が進行する中、将来への投資割合の変化を的確に把握し、持続可能な自治体運営を支える判断が必要である。議会には、常に「問いを立てて評価する」役割が課されている。